

第14回日中韓合同産業衛生カンファレンスへICOH“失業と健康”科学委員会参加

“失業と健康”への関心高まる！

2002年5月16-18日の3日間、韓国釜山市にて第14回日中韓合同産業衛生カンファレンスが開催された。このカンファレンスは3カ国が持ち回りで毎年開催される会である。今回の参加者は200名余で、日本からは70名余が参加した。

講演、一般口演、ポスター展示、シンポジウムで構成され、内容は肺疾患、人間工学、中毒、がん、重金属、産業衛生サービス、有機溶剤であった。シンポジウムは高年労働者の問題点が年々増加してゆく高齢化への対応策が討論され、最後に失業者の健康問題が取り上げられた。

失業者と健康の問題は現在国際的にICOH“失業と健康”科学委員会があって、今回の会議では、委員長のKieselbach教授(プレーメン大学、独独)が国際的動向を詳細にスピーチし、参加者の関心を集めた。

昨今のグローバル化の波は経済を直撃して経済不況をもたらした。失業者の健康問題は今日の問題となり、社会的影響が大きい。日本の失業率は約6%に達そうとしていて、欧米の先進国では8~10%の失業率を示している。日本と欧米では失業率の算定法が異なるので同一には論じられないが、日本も欧米並みの失業率と見てよいであろう。

失業はメンタル面への影響が大きく、恥を感じ、うつ状態になる。それは鬱病、自殺を引き起こす。ライフスタイルではアルコール依存症、喫煙の増加などが見られるようになる。身体的面では栄養障害に始まって疾病をもたらす。

このような状況は就労と失業が表裏一体の関係にあることを示している。いつ失業をしても動じない教育と社会体制の整備、が必要になる。失業者を労働者予備軍とみなして、いつでも就労できる態勢、健康を保持しておくことが肝心である。教育では、人々の労働期間は長いが会社の寿命は短いこと。人生の意味を考えて趣味やスポーツ、ボランティア活動などを通じて人生を楽しむ心構えを涵養することである。



心の相談室を開設

ハローワーク“失業と健康”対策ヘトリアル

失業による健康影響で、最初に現れる症状は感情障害である。それへの対策は急務である。その対策の一環として、厚生労働省は本年5月から拠点ハローワークに「心の相談室」を開設した。今後の動向を注目したい。

お知らせ お知らせ お知らせ

第3回“失業と健康”研究会は 9月28日(土曜) 14:00-17:00に、久留米大学医学部構内・筑水会館にて開催予定。事例報告を中心に討論する。



失業と心の動き

児玉 英嗣 (宮の陣病院院長)

仕事を失うことは一種の喪失体験で、心的なストレスを引き起こす。急性不安反応や抑うつ反応、さらに身体的な症状として、不眠、食思不振、動悸、種々の消化器症状を伴う事が多い。また失業は経済的な問題ばかりでなく、社会的地位や役割をも失うことになる。社会的な自己定義とも言える職業的アイデンティティ（職場における自分らしさの感覚）の揺らぎが出てくる。とくに、仕事・仕事上での地位、役割を自分のアイデンティティと考え、自己価値を職場内での自己像だけに置いてしまっている人にとっては、失業はその統合を大きく崩す。さらに、家庭内での家族としての役割にも変化を起こすため、場合によっては他の家族成員にも影響を与えることになる。我々の外来を訪れた、ある失業者の話からその心の動きとその変化を紹介する。

リストラの対象となっている事を告げられる。最初は「なぜ、自分が選ばれたのか？」という気分で怒りが出てきたが、すぐに開き直って「自分を必要としない会社はこっちから辞めてもいい」と思った。そのようなある日、出勤の途中、雪が強くなって車が渋滞し、2～3時間車内に閉じこめられた。急に漠然とした不安感が出て動悸を感じた。会社に行っても不安は続き、家に帰っても将来の事を考えると、憂うつになり、その夜は眠れなかった。

それ以降寝つきが悪く、朝は早く目覚めるという日が度々あり、食欲もなくなる。朝急に胸が苦しくなり、出社できない日も出てくる。翌年1月、本院外来を受診、向精神薬による薬物療法と併せて支持的精神療法による治療を始める。服薬で眠れるようになり、気分も落ち着いてきた。会社を辞め、仕事に行く妻に代わって、家事をすることになる。

それ以降寝つきが悪く、朝は早く目覚めるという日が度々あり、食欲もなくなる。朝急に胸が苦しくなり、出社できない日も出てくる。翌年1月、本院外来を受診、向精神薬による薬物療法と併せて支持的精神療法による治療を始める。服薬で眠れるようになり、気分も落ち着いてきた。会社を辞め、仕事に行く妻に代わって、家事をすることになる。

「今までやって来たことを生かせる仕事」を見つけようと就職活動もしてみたが見つからない。5月、ただただとした毎日を過ごし、そのうちに何もやる気がなくなる。朝早く目覚める日が多くなる。処方の変更と「焦らずに、自分にあった職探しをすること、奥さんに代わって家庭での役割を果たすこと」などをアドバイスする。9月、再就職が決まって出社するが、職場の雰囲気自分に合わないと感じ、また不安になる。以前の「うつ状態」が出てきたので、ここを2週間で辞めた。「自分ができそうな仕事には就いてみるが、合わないと感じたら辞める、仕事がないときは、家事をがんばる」と気持ちを切り替え、幾つかの仕事をやってみた。現在、運送会社の倉庫でリフトの運転をしている。身体は疲れるが、気分は落ち着いている。自分には身体を使う仕事が合っているのではないかと思い始めた。自分がそれまで持っていた自己像を、変えるということは難しい。これは個人のライフサイクルとも関係し、40～50歳代では家族に対する責任の問題もあり、さらに深刻である。

現在の仕事や職場に満足できず、将来のことも含めて再就職や転職を考えるが、新職場は探せない。家族のことを考えると、自分だけの考えでは思い切った自信もない。不安定な気持ちのまま、ストレスばかり強くなるが、それでも身動きできずにいる人が増えているように感じる。